
「妊娠高血圧症候群が常位胎盤早期剥離に与える影響の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療録を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、【埼玉医科大学病院 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

調査対象となる期間： 2011年 1月 1日 ~ 2019年 12月 30日

対象となる患者さん： 当院で分娩し常位胎盤早期剥離と診断された妊婦さん

2. 研究の目的

常位胎盤早期剥離(以下：早剥)の強いリスク因子として妊娠高血圧腎症(Preeclampsia: 以下 PE)が知られております。PEを合併すると早剥発症のリスクは2.8-7.7倍になることは既知の事実です。尿蛋白量は早剥の発症予測因子にならないと報告されておりますが、PEの有無による早剥の周産期予後の相違に関する報告は複数あり結論は様々です。そこで当院での早剥症例を妊娠高血圧症候群(Hypertensive Disorders of Pregnancy: 以下 HDP)及びPEの有無別に臨床背景、予後及び、同じ早剥でもPEの有無での病態の違いがあるのか、診断、対応に考慮すべきことは異なるのかなどを検証し、臨床現場での対応につなげていくことを目的とします。

3. 研究期間

病院長の許可後 ~ 2024年 12月 31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年 1月 29日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

試料：なし

情報：母体背景(年齢、経産の有無、早剥発症週数、早剥既往歴)、母体周産期予後(分娩時出血量、輸血率、DIC発症率、超音波所見・腹痛・性器出血の有無)、新生児予後(出生時体重、早産率、Apgar score、臍帯動脈血 pH、IUFD)。

この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学病院】において、研究責任者である鷹野夏子が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

常位胎盤早期剥離と診断された患者さんの診療記録を用います

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

鷹野 夏子	埼玉医科大学病院	産科・婦人科	助教
田丸 俊輔	埼玉医科大学病院	産科・婦人科	准教授
高村 将司	埼玉医科大学病院	産科・婦人科	准教授
梶原 健	埼玉医科大学病院	産科・婦人科	教授
亀井 良政	埼玉医科大学病院	産科・婦人科	教授

4. 試料・情報の管理責任者

【所属医療機関名】 埼玉医科大学病院 病院長 篠塚望

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 産科・婦人科 鷹野夏子

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話：049-276-1347（土日祝日を除く 9：00～16：30）

○研究課題名：妊娠高血圧症候群が常位胎盤早期剥離に与える影響の検討

○研究代表者：埼玉医科大学病院 産科・婦人科 鷹野夏子